ゲンロク 2017年10月号（毎月26日発売）
8月26日発売 No.380 第32巻第10号

Car Entertainment Magazine

［ゲンロク］

GENROQ

SAN-EI SHOBO 70 YEARS ANNIVERSARY
2017
OCT No.380
定価
860Yen
10

FIRST IMPRESSION
マクラーレン 570Sスパイダー

THE SUPER SALOON
今、サルーンを味わう

［究極の存在］ロールス・ロイス新型ファントム、デビュー

［最強のスポーツサルーン］
アストンマーティン・ラピードS ×
ポルシェ・パナメーラ × マセラティ・クアトロポルテ

［二面性の魅力］
メルセデスAMG E43 × キャデラックCTS-V

［圧倒的存在感］
ベントレー・フライングスパーW12 S

［三強の新フラッグシップ］
メルセデス・ベンツSクラス
アウディA8／レクサスLS

CIRCUIT TEST
メルセデスAMG GT R×ポルシェ911ターボS

FERRARI SPECIAL
エンツォ・フェラーリ×F12 tdf×458スペチアーレ

THE COMPETITION
ポルシェ911RSR／フェラーリ488チャレンジ

SHOP REPORT **ポルシェ特選ショップ**

Check it up 2

REPORT●中三川大地（Daichi Nakamigawa）
PHOTO●楠本ヒロト（Hiroto Kusumoto）

究極の“G”を求めて挑んだ
唯一無二の4×4²カスタム

EC.SPEC
MERCEDES-BENZ
G550 4×4²

世界各国の一流ブランドを巧みに組み合わせて斬新なカスタムを提案するECスペックから、また興味深い1台が登場した。なんとGクラスの最強モデルとして話題を集めるG550 4×4²のカスタムカーを仕上げてしまったのだ。

37年におよぶGクラスの歴史の中で育った特殊車両技術がふんだんに投入されたモデルである。ポータルアクスルの採用によるオリジナルの倍近い地上高の確保や、4輪を支えるツインサスペンションなど、構造的なトピックは枚挙にいとまがない。だからこそ、そこに手を加えるのは難しく、ホイールを外す時点から難航を極めたという。もちろん、特殊モデルゆえに世の中にはアフターパーツも出回っていない。

こうした時に強いのは、やはりヨーロピアンチューナー勢だ。特に世界のハイエンドカーをさらに己色に染め上げるマンソリーや、メルセデス専門ブランドのブラバスなど、G550 4×4²の存在感を引き立てる製品を数多くリリースしている。

今回、ボンネットやグリルなどボディパーツの多くにマンソリーを用いて、そこにさりげなくブラバス製のリップスポイラーやサイドステップなどを調和させている。インテリアメイクも両ブランドのコラボでまとめるなど、そのコーディネートはお見事だ。ホイールは純正のままだが、さりげなく黒色に塗装するなど小技にも抜かりはない。

純正時点でドライカーボン製のオーバーフェンダーが装着されるG550 4×4²だが、この両ブランドのマテリアルによってレーシングカーばりのカーボンボディとなった。かといってやりすぎには思えず、絶妙な塩梅で純白のボディにカーボンが投入されている。

ただでさえ希少なG550 4×4²である。ここまでカスタムの施された個体は間違いなく日本では唯一無二であるばかりか、世界を見渡してみても稀な存在だろう。ノーマルではなく、かといってヨーロピアンチューナーのコンプリートカーでもない。ECスペックの技術と感性が存分に注がれた、世界に1台だけのスペシャルモデルである。Gクラスはいまやあの手この手で改造し尽くされ、新鮮さを出すのは並大抵のことではないが、さすがにこの1台なら誰もが納得するはず。G63 AMG 6×6を凌ぐほど、という表現だって決して大げさではない。

G550 4×4²は、G63 AMG 6×6の4輪版として、メルセデスの特殊車両技術によりG550をハイリフトしたモデル。期間限定販売の希少車をカスタムした、レアな1台である。

適合するアフターホイールが皆無であるため純正の22インチを装着するが、黒色にペイントすることでオリジナリティを出した。

グリルやボンネット、ライト＆ミラーカバー、ルーフカバーなどはマンソリー製。そこにブラバスのスポイラーなどを組み合わせる。ブラバス製バルブ切り替え付スポーツエキゾーストも備わる。

サスペンションは2本のスプリング＆ダンパー（1本は電子制御可変ダンパー）からなるラリー強化仕様のツインサスペンション。KWが開発、生産した。最低地上高は460mmを確保している。